

2022 年度 建設労働政策研究会 経緯

NPO 建設政策研究所 関西支所

【研究会メンバー】

中山 池田 村瀬 蚊口 竹之内 横山 矢羽田 今井 平田 菊池

【研究会経緯】

◆第1回研究会 2022.3.14(月) 於) 関西支所 5人(対面3人、web2人)

前年度の経緯を確認。

今年度の研究の方向性として、建設生産システムの変化(合理化、機械化、自動化、遠隔操作化、等々)に伴い、土木現場、野丁場、新丁場、町場などの現場ごとに求められる技能レベルや処遇が異なっていくと想定されることから、現場ごと、技能ごと、職種ごとなど細分化して検討を進めることを確認。

◆第2回研究会 2022.4.18(月) 於) 関西支所 4人(対面2人、web2人)

第1回研究会を踏まえ、京建労の賃金アンケート(2011年～2021年)の結果から丁場別の賃金実態等を討論。

【資料】京建労賃金アンケートの特徴(仮題)

～2011年から2021年の65歳以下の労働者・一人親方の賃金推移～ 池田事務局員

*賃金日額について10年間で最も伸び率が高い＝大手住販(1.18倍)。月収の面でも大手住販が伸び率が高い。ただし労働時間も多く、月収の相違は主に労働時間によって規定されている。

*賃金の上昇は需給関係に左右されながらも最低賃金の伸びに一定の影響を受けている。

*公共工事設計労務単価の上昇は、賃金上昇には結びつかず、むしろ実態賃金との乖離を広げている。

*運動としては公契約法(条例)の制定、労働協約の制定、仕事確保の重要性を再認識。

◆第3回研究会 2022.6.15(水) 於) 関西支所 4人(対面2人、web2人)

建設キャリアアップシステムについて問題意識と現状を確認。

【資料】①問題意識：第20回建設研究・交流集会にて報告したレポート 蚊口事務局員

②京建労「CCUS 建設キャリアアップシステム」の現状報告 村瀬副理事長

* CCUS のメリット、懸念されることを理解したうえで有効に活用し、賃金に結びつけることが重要。

* CCUS の普及そのものが伸び悩み。簡略型を設けて登録者の増大を図るが、簡略型はカード発行のみでレベル判定がないため永久にレベル1。

*カードリーダーを持つのに初期投資が30万円、毎月7～8万円。事業者には抵抗感。

◆第4回研究会 2022.8.3(水) 於) 関西支所 4人(対面2人、web2人)

建設キャリアアップシステムについて問題意識と現状を確認 パート2。

【資料】建設キャリアアップの論点 村瀬副理事長

* CCUS の普及状況等確認。認定登録機関としての京建労の取り組み状況紹介。

*登録面→単に登録者を増やすだけでなく、詳細型・レベル3をいかに目指すか。

レベル判定を賃金にいかに反映させるか。

野丁場、新丁場、町場、あるいは都市部、地方部の温度差をいかに無くすか。など論点に。